

内田地区（山鹿市）

内田地区農業を未来へつなぐバトンづくり ～魅力を伝える 人・もの・観光～

キーワード

くりの拡大

ブランド化

後継者

果樹



ビジョン策定年度：令和2年度 目標年度：令和6年度

1. 課題と将来像・ビジョンの内容

地区の「課題と将来像」

【地区の課題】

- ・ 少子高齢化、担い手不足が進行している。
- ・ 条件の悪い所から耕作放棄地が増加している。
- ・ 機械化が困難、急傾斜地、施設の老朽化、水不足等農業生産基盤に課題を抱えている。
- ・ 鳥獣被害が増加している。
- ・ 公共交通廃止、店舗閉店等で生活しにくくなった。
- ・ 地域コミュニティが衰退して、人々のつながりが希薄になってきている。

【地区の目指す姿】 = ビジョン

- (1) 基盤整備で機械を効率的利用し低コスト稲作を行う
- (2) 栗の栽培技術向上と優良品種への改植で収量と品質の向上を図る
- (3) 地域営農組織を設立、農地を守るとともに働く場をつくる
- (4) 米や栗のブランド化と新規作物導入等で農業所得を向上させる
- (5) 鳥獣被害対策に取組み被害を減少させる
- (6) 観光施設等と協働して集落外の人との交流を促進し、集落を活性化する

【成果目標】

- ・ 栗の新植・改植面積を2ha以上増加させる。
- ・ 営農組合等を1組織設立する。
- ・ 農業体験等を1回以上実施する。



ビジョンの内容

(1) 所得の確保

- ① 栗の優良品種（銀寄・美玖里）への新植・改植を行う。
- ② 米のブランド化を目指し食味向上のための栽培管理等を行う。
- ③ 新たな加工品等の開発を行う。

(2) 担い手の育成

- ① 将来の農業・農村を守るため、地域営農組織設立（4～5年後目標）を目指す。

(3) 基盤整備の実施

- ① 作業道及び用排水路の更新や石積補修、湧水処理等を行う。

(4) 農業と観光のタイアップ

- ① 農家レストランや農家民泊等に取り組む。
- ② 観光地（ワイナリー、番所の棚田等）を巡るツアー等を行い、交流人口増加を図る。

整備・導入内容

令和2年度	粉碎機、ラジコン動噴
令和3年度	用水路更新、耕作道整備、自走式草刈り機、刈払機、石積補修

2. 内田地区の現状

【農業者に関する状況】

・総戸数	623戸	住民基本台帳
・総人口	1609人	住民基本台帳
・農家戸数	264戸	平成27年農林業センサス
・農業者数	262人	平成27年農林業センサス
・担い手数	78人	平成27年農林業センサス
・65歳以上の就農者数	148人	平成27年農林業センサス

【農地に関する状況】

(1) 面積区分

・水田	183ha	平成27年農林業センサス
・畑（樹園地除く）	23ha	平成27年農林業センサス
・畑（樹園地）	124ha	平成27年農林業センサス

(2) 作付区分

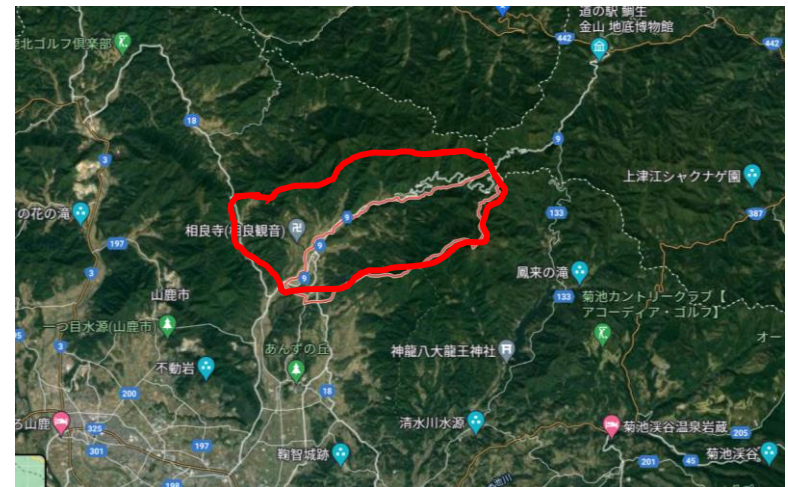
・水田	米、アスパラガス、いちご
・畑（樹園地）	栗、茶、たけのこ、ワイン用ぶどう、かき
(3) 耕作放棄地	あり

【基盤整備に関する状況】

(1) 耕作道路	舗装済
(2) 排水	コンクリート水路
(3) 用水	水路から直接取水

■ 地区の現状

- ・地区の農業従事者は**65歳以上が約50%**を占めている。
- ・地区の農地のうち**水田の約5割、畑の約2割**が未整備。
- ・**西日本一の栗の産地**
- ・日本の棚田百選に選定された「**番所の棚田**」がある。
- ・湧水量豊富な「**矢谷溪谷**」、国の天然記念物「**アイラトビカズラ**」、国内最大の千手観音の「**相良観音**」、菊鹿ワインを醸造する「**菊鹿ワイナリー**」があり、観光客が多く訪れる。



(1) ビジョン策定に至ったきっかけ

「活力あるふるさとを引き継ぎたい」という思い

内田地区には中山間地域等直接支払事業に取り組む23集落協定があり、高齢化と過疎化が課題となっていた。そこで集落協定の代表者を集めて山鹿市の担当者が「熊本県中山間農業モデル地区支援事業」の説明を行ったところ、「事業をしましょう」と合意した。その背景には、内田地区の農業の未来のために担い手の育成とともに次の世代に活力あるふるさとを引き継ぎたいという思いがあった。

(2) ビジョン策定メンバーと手法

【メンバー】

- 各集落協定から代表を出してもらい、それぞれの集落協定での事業説明と要望のとりまとめを行った。

【手法】

- 各集落協定の代表を通じて集約した住民の声を反映させながら、代表によるワークショップでビジョンを作成していった。



熱心に取り組まれたワークショップ

(3) ビジョン策定の流れ

現状把握

対象地区が広い範囲にわたっていたため事業内容の説明と同時に各集落協定の現状と要望を吸い上げた

情報のとりまとめ

各集落協定からの情報をもとに現状と課題についてのワークショップを実施し、課題を煮詰めていった

将来に向けた具体的な方策を検討

課題が見えてきた段階で、将来へ向けた具体的な取り組みや成果目標を検討していった

合意形成

事業要望箇所の現地調査を行い、事業ビジョン内容の最終確認から合意形成につなげていった

■ ビジョン検討の流れ

回	実施日	話し合いの具体的内容	参加人数
1	令和1.11.7	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要、協議会規約、役員等について確認 ・事業要望について検討 ⇒事業目的・内容の共有、協議会の正式発足	10人
2	令和2.1.10	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップを実施（4班編成） ⇒地区の現状や課題について情報交換と取りまとめ	18人
3	令和2.2.12	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の現状と課題内容の確認 ⇒課題の共有と絞り込み <ul style="list-style-type: none"> ・内田地区の将来に向けた具体的方策についてのワークショップを実施（3班編成） ⇒具体的内容について意見交換と取りまとめ	16人
4	令和2.8.21	<ul style="list-style-type: none"> ・農業ビジョン策定についての具体的取組みの検討 ⇒たたき台の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・成果目標についての検討 ⇒目指すべき目標を具体的に検討	23人
5	令和2.9.17	<ul style="list-style-type: none"> ・事業要望箇所の現地調査を実施 ⇒現地を実際に調査することで具体的な事業内容への最終確認	8人

(4) ターニングポイント となった出来事

まずキーパーソンを中心に

熊本県で平成29年から始まったモデル事業の最初の5地区に山鹿市鹿北地域岳間地区が選定されていた。菊鹿地域から新たに追加したいとの思いから、山鹿市担当者が内田地区で栗栽培に取り組んでいるキーパーソンへの相談がビジョン策定へのきっかけとなった。



(5) 重点ポイント～恵まれた資源を生かせる農業

特産の栗、種もみ用の優良米が農業資源としてある一方、矢谷溪谷、アイラトビカズラ、相良観音、番所の棚田、菊鹿ワイナリーなど恵まれた自然と文化・観光資源を有する地域。未来へバトンタッチができるよう、これらをを活かす工夫を重ねている。

ビジョン（1）所得の確保

①くりの優良品種（銀寄・美玖里）への新植・改植

令和2年度のかりの新植・改植面積2ha完了、今後も継続

今後とも関係機関と連携してかりの新植・改植を推進するとともに、収量・品質の向上に向けた技術支援を受けていく。

大粒で洋菓子用に需要がある銀寄などに改植していくことで、需要を拡大していく。改植には利平、丹波などの品種も混植して受粉率を高めるなど栽培技術のレベルアップに取り組む。

また、かり剪定用の粉碎機を導入し、かり園の管理が省力化した。

②米のブランド化を目指して食味向上のための栽培管理

ビジョン策定は高評価の地元産米を売り出すチャンス

内田地区の「内田米」をブランド化して付加価値の高い米として売り出すことに取り組んでいる。

内田地区のライスセンターが「矢谷の米」のブランドで販売しているほか、農協指定の種もみ用としても内田地区の米は高い評価を得ている。品種としては「森のくまさん」「ヒノヒカリ」「くまさんの輝き」のほか、深瀬地区のもち米「ヒヨクモチ」などが今後も期待できる。

水田の管理省力化のため農薬の動力噴霧器を導入し、高齢の生産者に喜ばれている。

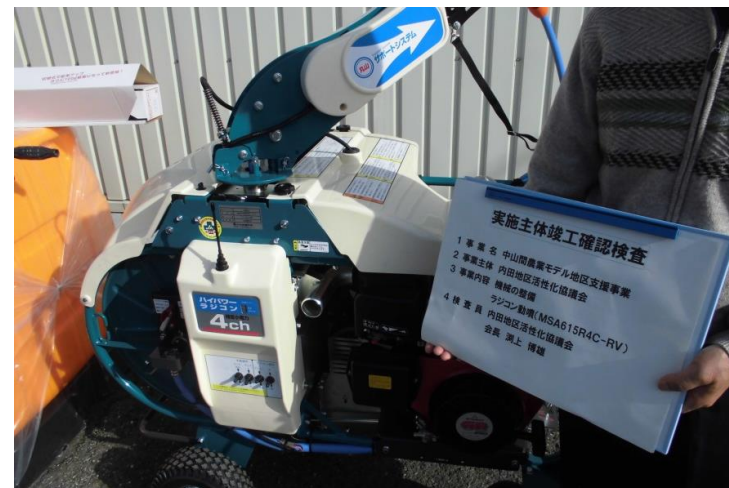
③新たな加工品等の開発

女性パワーに期待

ビジョンを立ち上げたばかりで、加工品の開発には至っていないが、矢谷地区の女性グループが地元農産品を使ったジャム開発に取り組んできた。女性の感性で開発する特産品に期待したい。



導入した粉碎機（上）と動力噴霧器（下）



ビジョン（2）担い手の育成

① 将来の農業・農村を守るため地域営農組織設立を目指す
合意形成・農地集積・経営計画作成等の支援が開始

山鹿市においては、鹿北地域岳間地区の地域営農組織が先行して設立されており、内田地区を含め菊鹿地域においても営農組織設立への機運が高まっている。

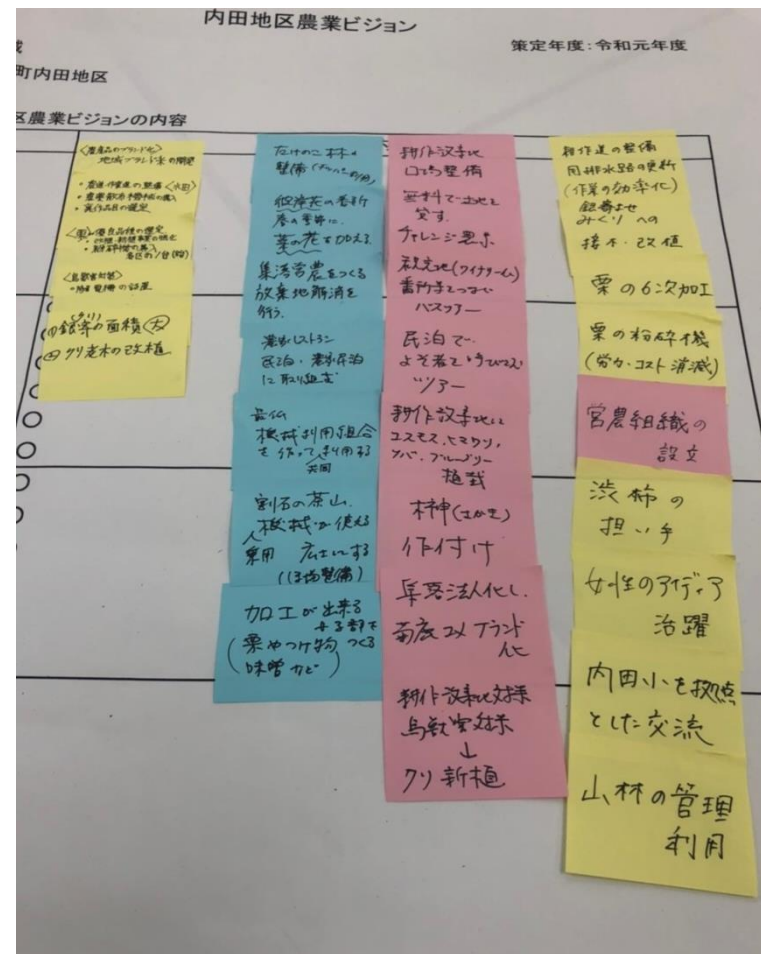
ビジョン策定では、4～5年後を目標に内田地区での地域営農組織の設立を目指しており、令和4年1月、内野集落で農事組合法人上内田ファームが設立された。これに合わせて、山鹿市やJA鹿本から合意形成や農地集積に関する活動と経営計画作成等の支援を受けている。

野菜栽培で高所得の若手後継者の成功例が刺激となる

農業である程度の収入が確保できる見通しが立てば、後継者・担い手の確保も可能となる。

ビジョン策定の令和2年度には、菊鹿地域では、なす（ハウスと露地）、しいたけ、いちご（ハウス）で高収入を得る若手後継者が現れている。

地元の若手後継者の活躍により「農業はやる気とやり方次第で豊かな暮らし」を築けることが証明されている。ビジョンでは意欲的な担い手の確保によって将来の農業・農村を守ることを目指している。



ビジョン策定の段階では地区の将来像に向けてさまざまな取り組み事例が発表された

ビジョン（3）基盤整備の実施

①作業道及び用排水路の更新や石積補修、湧水処理等を行う

令和3年度から着手

「日本の棚田百選」に選ばれた**番所の棚田**を対象に事業に着手した。番所地区は急傾斜地が多く、基盤整備が遅れていた。従来、高く築かれた石垣と急傾斜に阻まれて農業機械が入りにくい地区。生産性向上のために農業トラクターの利用が可能なように**石積補修、農道の改良・更新**に取り組んでいる。

さらに、番所地区の水田は法面最下部に後背地の山から湧水が浸みだすために湿田の状態が多く、稲刈り時期には作業がしにくい。乾田化のために用排水路の更新や石積補修などによる基盤整備事業に取り組んでいる。



生産性向上を目的に番所地区の棚田の石垣の補修や農道、用排水路の改良が始まっている

ビジョン（4）農業と観光のタイアップ

①農家レストランや農家民泊に取り組む

コロナ禍の影響があり、農家レストランや農家民泊計画段階で具体的な[事業開始には至っていない](#)。

②観光地（菊鹿ワイナリー、番所の棚田等）を巡るツアー等を行い、交流人口増加を図る

田植え体験イベント等の経験を活かして都市部との交流復活へ

深瀬地区の古民家を改造して数年前まで農業体験向けの宿泊施設として活用していた。田植え時期、稲刈り時期に熊本市や福岡都市圏から数十人単位の小学生・保護者に利用してもらっていた。近くの八方ヶ岳の麓の三区に宿泊施設を設けたことから「日ごろのストレスを発散しましょう」との意味を込めて「八三会」（日ごろのストレスを発散しましょう）と名付けた地元のグループが農業体験のお世話をしていた。現在は「八三会」が解散したため、再び「八三会」活動を復活して交流を再開したいと考えている。

菊鹿ワイナリーをもっと盛り上げる企画も今後の課題

「菊鹿ワイン」を生産する[菊鹿ワイナリーとのコラボレーションも課題](#)となっている。従来ワイナリーでは加工品の直売が主だが、将来は内田地区で開発した食材や新鮮な野菜の販売も視野に入れていきたい。



石積み美しい番所の棚田

振り返り・成果・今後に向けて

(1) 振り返り（ビジョン策定と取り組みの総括）

【取り組みが継続するためのポイント①
～ビジョン策定時】

**ワークショップを通して
強み・弱みを含め
地区の現状をしっかりと把握する**

【取り組みが継続するためのポイント②
～取り組みの総括】

**取り組む事業に優先順位をつけ
現実的な取捨選択を行う**

(2) 成果

【成果目標】

- ・令和2年度の栗の新植・改植面積を2ha以上増加させる
- ・営農組合等を1組織設立する

【結果】

- ・栗の新植・改植面積⇒2ha
- ・内野地区（内田地区内の集落）で農事組合法人が設立された

メンバーの声

がんばれば所得も上がり地域も元気になる

ある程度の収入があれば担い手は確保できる。所得があがれば後継者もやる気が出て元気になる。農業もやり方しだい。地域資源を生かすことで、地域も活性化する。

(3) 今後に向けて

①地域農業の中核となる営農組織の組織化を急ぐ

将来の地域農業の担い手となる人材を育てるには、後継者、新規就農者を含めて担い手を支援する地域営農組織の存在が欠かせない。

②コロナ禍の影響から対象を絞り込んで事業を進める

限られた予算の中で効果的に事業を進めるためには、それぞれの地区で「これだけはぜひ取り組みたい」という事業の絞り込みが必要。